

# 開発目標

## システムソフトウェアの開発目標

- ① CPUコア1000万基以上並列での効率的動作が可能なシステムソフトウェアを開発し、ポスト京において運用に供する。
- ② 開発するシステムソフトウェアは、他のシステムで開発された、既存OSSなどのソフトウェアを簡単かつ効率的に実行できるようにする。
- ③ CPUコア1000万基以上並列での効率的動作が可能なプログラミング環境を実現するために、並列プログラミングを容易にする並列プログラミング言語やアプリケーション分野に適したプログラミング言語（DSL:ドメイン特化言語）等を開発し、ユーザーに供する。
- ④ 開発するソフトウェアはオープンソース化し同時に国際連携することによって、最先端システムソフトウェア技術をいち早く取り込みユーザーニーズに応えられるようにする。

## システムの拡張性と機能拡張可能性

- ボード交換および機能拡張でポスト京の次世代CPUにアップグレード可能な設計としている。
- 次世代CPUにおいて、ポスト京で利用予定の10nmテクノロジーの次の7nmテクノロジーが利用可能となる見込み。
- 次世代CPUのボードに交換できれば、電力性能をさらに向上できる可能性がある。  
⇒ 同じ電力であれば、全体性能が向上。 同じ性能であれば、電力削減が可能

## システムの下方展開・海外展開

- 標準ラックに搭載できる、小規模なシステムへダウンサイジングできる設計とする計画  
⇒ 1ラックでも商用展開可能に！
- ポスト京導入開始と同期をとった商用機導入を国内外へ働きかけ  
⇒ 国際的HPCエコシステム構築の推進（システムソフトウェアの国際協力とともに）